

平成30年度第4回 歴楽講座



東葛にあった大名・旗本陣屋

主催：手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会

関東では戦国時代の終わりは、天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原攻めとされています。その後、関東には後北条氏にかわって、徳川家康が入部し、やがて江戸に幕府が開かれます。

この江戸開府前後の時期は、謎も多いです。徳川家康とその配下の三河武士たちは、小田原でも鎌倉でもなく、江戸を拠点とし、三河や周辺から人を集めて江戸を整備しました。家康は小金を息子武田信吉の領地としました。後北条氏が歴史の表舞台から消えた後、東葛地域には、徳川氏の譜代家臣が配され、陣屋が置かれました。今では、その場所も分かりにくくなっていますが、当時の東葛の位置づけを含め考察したいと思います。

本土寺にある武田信吉生母於都摩の墓（左）、
松戸の松龍寺（中）、船戸陣屋跡近くの不動堂（右）



🍇 日時・場所 2018年8月26日(日) 12時半開場、13時～15時
パレット柏 ミーティングルームE
(柏市柏1-7-1-301号 Day One タワー 柏駅南口徒歩3分)

🍇 講師 当会会長 森伸之 (軍事史学会会員)

🍇 参加費 会員：100円、一般：300円 (資料代込み)

🍇 その他 申込不要。会場に隣接して駐車場はありますが、有料です。
当会会誌「水辺の城」第2号 頒布中。

🍇 問い合わせ メール：info@matsugasakijo.net または Tel. 090-3579-5185 (森)
(平日のお問合せは午後6時以降にお願いいたします)

(C) 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会